



# 古伊万里の御道具 —茶・華・香—展

**会期** 2021年9月30日（木）～12月19日（日）

※会期は予告なく変更となる場合がございます。

## 概要

古伊万里には食器が多数見られますが、水指や茶碗、菓子鉢、花器、香炉、香合など、少量ながら茶の湯やいけばな、お香のための道具も残されています。造形も絵付けも趣向を凝らした古伊万里の優品、約80点を展示いたします。

# 趣向を凝らした道具の数々

日本において、仏前に花や香を供える習慣は6世紀に仏教の伝来とともに、飲茶の風習は遅くとも平安時代までには中国からもたらされたとされています。室町時代に至って上流階級の間では邸宅内に設けた会所（接客のための空間）で茶の湯や花合、香会などが盛んに行われるようになり、現代の茶道や華道、香道につながる礎が築かれました。こうした会の中で珍重された道具が、中国から舶載された「唐物（からもの）」の金属器や漆工品、陶磁器。その後、桃山時代に入ると和物、とくに成長著しい桃山茶陶の茶碗や花生、香合などが製作されるようになりました。

遅れて江戸時代初頭に佐賀・有田でその歴史がはじまる古伊万里では、既存の道具の影に隠れがちでしたが、少量ながらも水指や茶碗、菓子鉢、花器、香炉、香合などが残されています。唐物の陶磁器や桃山茶陶などの古典に良く学んだ作例もあれば、同時代の国内外の他窯の影響を受けているもの、全くの新規性が感じられるものも。こうした道具類は型をもちいた複雑な造形や丁寧な絵付けなど、古伊万里の中でもとりわけ趣向を凝らしています。

今回の展覧会では見立ても交えながら茶の湯やいけばな、お香の道具を陳列いたします。古伊万里の優品、約80点をご堪能ください。

## 《展覧会紹介文》どうぞご活用ください。

### ■19word

趣向を凝らした古伊万里約80点をご紹介します。

### ■98word

古伊万里には食器が多数見られますが、少量ながら水指や茶碗、菓子鉢、花器、香炉、香合などの道具も残されています。複雑な造形や丁寧な絵付けなど、とりわけ趣向を凝らした優品、約80点を展覧いたします。

## 主な出展作品

### ①染付 楼閣山水葦雁文 水指

伊万里 江戸時代（17世紀前期） 高16.1cm

水指（みずさし）とは、茶の湯において釜に補う水や、茶碗、茶筌などをすすぐ水を入れておくうつわです。白い磁肌に青色の絵付けが清涼感溢れる染付（そめつけ）では、17世紀前期に中国・景德鎮（けいとくちん）民窯の作が珍重され、その影響が古伊万里の作風にも及びました。

本作は肉厚な器胎と山水文の主題が景德鎮民窯の古染付（こそめつけ）を彷彿とさせます。胴部を一周する、濃淡と線描を駆使した雄渾な楼閣山水文や葦雁文が見どころ。発色も良く、山や楼閣、雁の群れなどを巧みな筆致で描き分けて表現しています。



### ②染付 樹下群鶏文 手鉢

伊万里 江戸時代（17世紀中期） 口径21.8cm

17世紀中期にさしかかると、次第に「綺麗寂び」の風潮が広がります。その中で取り上げられた染付磁器が、幾何学文様を多用した複雑な文様構成とより細かな線描を特色とする景德鎮民窯の祥瑞（しょうずい）でした。

祥瑞手の本作は愛らしい鶏やひよこに加えて、従文様の四方禪文や丸文も丹念な描き込み。手付きの鉢は桃山茶陶や景德鎮民窯の菓子鉢（主菓子用のうつわ）や肴鉢（茶懷石で菜を盛るうつわ）に見られますが、古伊万里では貴重な作例です。







### ③青磁瑠璃銹釉 鷺龍文 三足皿

伊万里 江戸時代（17世紀中期） 口径24.0cm

菓子鉢と推測されるうつわ。三足皿は古染付や祥瑞にも見ることができますが、本作のように陽刻と透明・青磁・銹・瑠璃の四色の釉薬の掛け分けを駆使した高い装飾性をもつ作例は古伊万里ならではのと言えるでしょう。

技術革新を経て製磁技術が向上した時代に製作されたもので、型を用いながらも類品は確認されていません。高めの三足を伴う掛け分けの皿は珍しく、鷺の羽や龍の鱗まで細密に施した陽刻も秀逸な作例です。

### ④青磁 魚形双耳瓶

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 高24.3cm

室町時代、中国からもたらされる道具は「唐物（からもの）」として憧憬の眼差しを浴びました。そのうち、花器として珍重されたのは、古銅や中国・龍泉窯（りゅうせんよう）の砧青磁（きぬたせいじ）です。

数百年の時を経て、古伊万里ではその砧青磁に倣った瓶類が作られました。龍泉窯青磁の灰色あるいは褐色がかった土とは異なり、白い粘土から作られた古伊万里では、青磁の発色もより明朗な印象です。本歌に比べて胴部が小さく、口部がラッパ形に大きく開いた器形も、古典に学びつつ創意を求める姿勢が感じられます。



### 染付辰砂 花文 三足香炉

伊万里 江戸時代（17世紀前半） 高6.7cm

丸く膨らんだ胴部に貼り付けで、垂直に立ち上がった頸部には辰砂（しんしゃ）で花文をあらわした香炉。火屋は伴わず、小ぶりのサイズ感からも聞香炉（手で使う香炉）でしょう。

胴部の背景は青海波、頸部は草花文をそれぞれ陰刻し、底部には小さな三足をつけるなど、丁寧な作行き。辰砂は綺麗な紅色を得ることが難しい絵具ですが、本作では胴部の濃い目の濃（だみ）と鮮やかな対比を見せています。



### ⑤染付 孔雀形香合

伊万里 江戸時代（17世紀中期） 通高7.2cm

香合とは、練香（ねりこう／香料を蜜などで固めたもの）や香木を納めておく蓋付きの容器のこと。茶の湯においても重要な道具のひとつで、陶磁器では小品ながら型を用いて繊細に動物や植物、器物を象ったものが多く見られます。

本作も孔雀の美しい尾羽や冠羽、足先まで再現した労作。上半部を開けると内面も調整の上、釉薬を施しており、細部まで作り込んであります。

※次項の作品①～⑤の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。

## 美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



## 展覧会概要

※下記の内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承くださいませ。

名称：『古伊万里の御道具—茶・華・香—展』

会期：2021年9月30日（木）～12月19日（日）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3

開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

※毎週金曜日・土曜日は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）

休館日：月曜日・火曜日

※11月23日（火・祝）は開館。

入館料：一般1,200円/高大生700円/小中生400円

※10月14日（木）はメモリアルデーのため、入館料無料。混雑時は入場・入室制限をさせていただく場合がございます。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

## ミュージアムグッズ

今展のおすすめ

戸栗美術館オリジナル和三盆



当館のロゴである虎文をメインに、桃や松、紅葉など、古伊万里の定番モチーフを取り揃えました。800円（税込）。2021年4月販売開始。

## 次回展予告

名称：『古伊万里幻獣大全展』

会期：2022年1月7日（金）～3月21日（月・祝）

### 展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館

広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL：03-3465-0070

FAX：03-3467-9813

URL：http://www.toguri-museum.or.jp/

E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp